

資料

## 四国中央市銅山川・富郷工業用水道事業の紹介

### ○事業の主旨

四国中央市は、平成16年4月、2市1町1村が合併して出来た新市であるが、この四国中央市の工業用水道事業は、昭和31年8月合併前の伊予三島市・川之江市の工業用水に関する事務を共同で処理するために「川之江伊予三島工業用水組合」（特別地方公共団体）として発足したのが始まりである。当市は愛媛県の東端に位置し瀬戸内海に面した地域で、東西に細長く南北が狭いという地理的条件のため、せっかく降った雨も直ぐ海へ流れてしまい、古来より水不足に悩まされてきたところでもある。しかし合併前の伊予三島市・川之江市は、古くから和紙の生産の盛んな地域であり、現在も大小約60社にも及ぶ製紙工場があり全国屈指の製紙産業地帯となっている。製紙産業の発展には用水の確保が古くからの懸案事項であったが、昭和28年柳瀬ダムの完成とともに、戦後の社会基盤の変革に伴い手漉きから機械抄きへと製紙産業も大きく様変わりをし、飛躍的な発展をとげた。昭和39年には東予新産業都市の指定を受け、瀬戸内海工業地帯の一翼としてさらに発展をとげてきたが、それには吉野川総合開発計画の関連事業に銅山川工業用水道企業団（四国中央市水道局の前身で、川之江伊予三島工業用水組合が名称を変更したものである。）が参画し、昭和51年3月新宮ダムの完成によって毎秒3.28m<sup>3</sup>、平成4年11月柳瀬工業用水道事業認可で毎秒2.55m<sup>3</sup>、平成13年3月には富郷ダムの完成で毎秒1.45m<sup>3</sup>の水利権を確保したことも大きな要因であり、このように工業用水道事業が安定した工業用水を供給することで地域産業の発展に寄与することが目的で実施されたものである。

### ○事業の経緯

四国中央市の工業用水道事業は、前述の通り昭和31年8月当時の伊予三島市・川之江市の工業用水に関する事務を共同で処理するために「川之江伊予三島工業用水組合」として発足したのが始まりである。昭和42年4月銅山川工業用水道事業の着手により、公営企業法の適用を受け同43年7月「銅山川工業用水道企業団」に名称を変更した。昭和50年新宮ダムの完成により毎

秒3.28m<sup>3</sup>の水利権を得、銅山川工業用水道事業の一部営業を開始。同52年3月に銅山川工業用水道事業が完了したことに伴い4月より全部給水を開始した。しかし製紙産業の発展と共に工業用水に不足が生じたが、昭和58年4月待望の富郷工業用水道事業が着手された。平成4年11月には柳瀬工業用水道事業も認可され給水を開始した。平成13年3月長い年月をかけて富郷ダムが完成し、毎秒1.45m<sup>3</sup>の水利権を確保。これにあわせ富郷工業用水道事業も完成、4月より給水を開始したが、長期にわたる建設期間中の経済・産業界の変化により、需要量に若干の減少が生じている。

### ○ユーザーの概要

(平成20年4月1日現在)

業種	給水件数	契約水量 (m <sup>3</sup> /日)
紙・パルプ	45	577,140
化学	2	500
計	47	577,640

49工場の給水先のうち新宮水系の取水は8工場、柳瀬水系2工場、富郷水系6工場、新宮・柳瀬両水系5工場、新宮・富郷両水系11工場、新宮・柳瀬・富郷の三水系が15工場となっている。

### ○工業用水道施設の概要

本市水道局工業用水道事業には、銅山川工業用水道事業と富郷工業用水道事業があり、銅山川工業用水道事業は新宮ダムと柳瀬ダムを水源とし、φ1650の導水管で導水、約21kmの配水施設により、また富郷工業用水道事業は富郷ダムを水源とする導水管約800mで導水、約25kmの配水施設でそれぞれ伊予三島地区・川之江地区の工場へ給水している。

### ○事業の特徴

銅山川工業用水道事業の水源は新宮ダムと柳瀬ダムであり、富郷工業用水道事業は富郷ダムを水源としている。上流側より富郷ダム、柳瀬ダム、新宮ダムとあるが、これ等の水源ダムは、水質がよいことと、高低

